

●国際ロータリーテーマ



世界へのプレゼントになろう



SABAE ROTARY CLUB

●クラブ活動方針

2015.7-2016.6

塩梅よく

会長 小部 隆充
幹事 大橋 良史

●5月 第1例会

●R I 第2650地区スローガン 『クラブに「個性」と「憧れ」を!』

●第2753回 平成28年5月6日(金)

点 鐘 12:30~
四つのテスト
国歌・ロータリーソング斉唱
会長の時間
結婚・誕生祝、勤続表彰
幹事報告等

卓話 かえりやま整骨院 帰山 明朗 会員
院長

テーマ 「議会の仕組みについて」

▼第2752回例会報告 平成28年4月22日(金) ▼鯖江商工会館 3階中ホール 出席率 79.3%

四つのテスト
言行はこれに
照らしてから
一真実かどうか
一みんなに公平か
一好意と友情を深めるか
一みんなのためになるかどうか

日も風も星も

佐野 直美 ソングリーダー



幹事・副会長 報告



帰山 明朗 副幹事

本日、大橋幹事が九州出張のため、副幹事が代行する。

①本日、鯖江RAC例会。「わーる井④」を開催。登録：19時、開会：19時半、閉会：21時。場所：アイアイ鯖江。登録料：500円、持ち物：エプロン。当日参加も可能。

②次週、29日は祝日で休会。休日を楽しんでほしい。次回は5月6日。第1例会なので、終了後理事会を開催予定。出席義務者の方は、今から予定願いたい。



田村 康夫 副会長

先週17日(日)、地区研修・協議会が開催され、鯖江北RCと一緒に参加。次年度7月に向け2カ月余りになった。参加の役員、代理出席の方にお礼申し上げる。

1つ驚いたのは、RI審議会が大改革を発表。正式決定ではないが、7月から施行するという事で、例会は月2回以上でよい。RCの看板である職業奉仕も、余り重きを置かない言い方に代わるようである。皆さんに相談しながら対応していきたい。

お客様の紹介と会長の時間



本日のお客様。福井県立大学、教授、南保勝様(写真右)。後ほど卓話願う。

1950年代にアインシュタインは「蜂がいなくなったら人類は4年しか生きられない」と予言しました。



植物全体の受粉の約2/3をミツバチが担い、仮に絶滅すると、地球上の植物の半分以上が種子を作れなくなる。

特に人間が食糧としている作物の多くは、今やミツバチの協力なくては生産出来ない状態にある。その食糧生産に対する被害率は、更に高まる。

4年で人類が絶滅するという計算の根拠は不明だが、今現在でも10億人の人々が飢餓状態にある。食糧が半減すれば、その10億人は確実に餓死に向かい、新たに20-30億人が飢餓状態に陥る可能性がある。

そうなれば、食糧をめぐる国際紛争が、確実に世界各地で一斉に勃発する。仮にその中で、核兵器を使う国が出てくれば、その先に何が起こるかは予想できない。

アインシュタインが生きていた1950年代は、現実には米・ソ間で核戦争が起こる可能性が高かった時代。その死の直前まで核廃絶運動をしていたアインシュタインならば、そこまで考えていたのかも知れない。



ニコニコBOX報告 (敬称略・順不同)

- 1 小部 隆充
- 1 岡本 圭子
- 1 帰山 明朗
- 1 齋藤多久馬
- 1 窪田 健一

1:南保様ようこそ。卓話に期待して



卓話 福井県立大学 地域経済研究所 教授 地域経済部門リーダー 博士南保勝様
テーマ「福井地域学のすすめ」

最近、20年ほど前に読んだ本を思い出した。村山節さんの「文明と経済の衝突」。私に強烈な印象を与え、文明と経済は、西洋と東洋の間を800年周期で渡り歩く、という流れの本。BC400年頃西ローマ帝国建国。紀元後東ローマ帝国になり、AC492年、首都コンスタンチノーブルが崩壊。この間約800年は、西洋。1200年までの800年はペルシャ等が頑張った東洋。十字軍が起きて、1200年から2000年までが西洋。その間、西と東が入れ替わった。



今は西洋から東洋に入れ替わる分岐点。今後100年は、世界を駆逐してきた米国の力が減り、東洋の国々が力を持つてくる。実際、GDPは2年前全世界で72兆ドル。内米国が1/4、現在1/5。減った分は東アジア諸国。その本に日本は、ギリシャに相当、位置。しばらくは持ちこたえられるが、アジアの中国、インド等に駆逐される、と想像される。

■今の日本、熊本の地震、東日本大震災を忘れられない。

(1) 戦後71年目、壊れかけた経済・社会システムをリセットし再スタートを切る大転換のきっかけを与えた。

その間の日本経済の進化を振り返ると、大きく3つの軸に分けられる。1960年代、年間成長率10%。70年代に入り、ドル・オイルショック等色々な経済情勢の変化を受けつつも、4%成長。85年プラザ合意、86年からバブル時代、91年バブル崩壊後、日本の経済成長率は1%程度。一旦上がった階段を2つ落込み、失われた10・20・30年と続いた。

政府政策は、大きく分け60-70-80年代のバブル崩壊までは、ケインズの有効需要原理が基本の政策。需要が100→80に減れば、減った20分を公共投資等で税金を投入し100に戻せばよいという政策。それが90年代初めまで続いた。

ところが97年、金融ビッグバン。銀行が、生保、損保、投資信託等の金融商品を扱える、市場原理主義。それによって日本経済がおかしくなった。規制改革をやりすぎた。

規制改革は市場活性化を招くが、中小企業が多い国では返って弊害を招いた。需要者側の改革をやり、97年以降供給者側の改革を始めたが、2020年代に近づいても、効き目がない。政府は、そこから成長戦略に舵を取りたかった。

一方、民間の流れは、60年代日本が高度に伸びた時代。日本的経営の終身雇用、年功序列、系列化、間接金融、メインバンク制等に特徴を持った経営システム。91年頃から市場が倍増し競合相手が倍増する中、日本的経営が機能を失った。大転換していき、欧米化した。

政府も民の側も、動きがおかしくなった。そこで、震災がリセットして、再スタート切る事を教えてくれた。単に日本の企業が欧米化したシステムを導入するだけでは、上手くいかない事を私たちに教えてくれた。

(2) 絆の必要性 地域のコミュニティ力のあるところから先に復活していった。いかにネットワーク、絆が重要か改めて知らされた。2つ目のテーゼとして教えてもらった。

(3) 地域自らの力、地域力を育てること

今、日本は地方創生。去年からどこの自治体も人口減少に対し、地域間競争で奪い合い、わが町だけを守ろうとしている。その根底は、多くの負債を抱えた政府の力が弱くなり、もう地方は勝手に守っていく時代。地域力、地域自らの力をどうつけるかが大事。東北も地域の力があるところが、政府に頼らずいち早く復興を成し遂げてきた。

今までは、政府から与えられた一元的政策をどうこなすか、という時代。HOWの力。今後は地域は何をするか、WHATの力が問われる時代。

ただ、WHATはHOWに比べリスクが高い。一つ間違えるとその地域自体が滅んでしまう。地域は、自らビジョン・企画・構想・アイデア力等、色々な力を蓄えるべき。震災以降、日本は地域力、地方圏の時代が来ている。



去年1年間、いったい福井はどうかというところか勉強し「福井地域学」と、いう1冊の本を書いた。

なぜか。最近、福井は力が無いように思えたから。福島原発事故以降、原発が集中する福井県では、原発が経済的に負の効果をもたらしている。昨年金沢まで開業した北陸新幹線は、北陸全体で見れば光り輝いたが、まだ開通していない福井にとって、福井が浮いた存在になっている。福井の人口減少は、日本全体の平均より早いスピードで進んでいく、報告がある。幸せ度、豊かさNO1と言われる福井に居ながら、実感できないのはなぜか、疑問を持った。

内容は、歴史を文化論で見る地域経済学。福井は、歴史上すごいものがある。

507年、継体天皇が即位し、越の国ができた。日本で力あった所だったが、力が無くなった。

「福井地域学とは、長い歴史の中で培われた伝統、文化、芸術、県民性、モノづくりの知恵等を基に、福井人自らが誇り、プライドを醸成し、今、福井が抱える課題に対し、積極果敢に挑戦すべき手法を考える学問領域」と、定義。

去年分かったのは、福井は打ちのめされているが、誇り高い所。だが誇りを確認できない所。まずは誇りを歴史や文化、伝統、芸術、暮らし等から醸成し、もう1回リセットし再スタート切れたら、という思惑を書き連ねた。

■作家、司馬遼太郎さんが感じた越前

余談だが、司馬遼太郎さんの本「越前の諸道」に「本能寺の変後の政局・幕末にも越前の存在は大きく、確かに重要な役割を果たした。しかし、どこか悪の強さがなく他人の機略にしてやられる所がしばしば。その発想には素封家の旦那のよう」と、書いていた。要は、越中強盗・加賀乞食



・福井詐欺と言われるがその言葉が当てはまらない福井人、気持ちいい福井人を感じたと思う。

一方で、何故か他人の機略にやられてる、何となく人のいい福井人を少し斜めから見ている司馬さんを感じた。何れにせよ、こういう福井人から離脱する必要がある。

■歴史作家、加来耕三さんが感じた越前

昨年3月、福井市主催、歴史作家、加来耕三氏講演会に参加。演題は「100年の興亡 朝倉氏一族」。加来氏は、朝倉氏一族が100年で滅んだ理由をいとも容易くこう言い放った。「越前は豊かすぎた。武人であると同時に文人でもあった朝倉氏には、京の都に攻め上り天下を取る気がなかった。豊かすぎ・越前を愛しすぎたが故に、越前から外に飛び出すことを拒んだ。北の一向宗への守りはしっかりやったが、南の守りをおこたった。そして、織田勢に滅ぼされて…」今の福井を戦国武将朝倉氏に例えて言いたかったのではないか。豊かだ、幸せだと言っているうちに、段々とゆで蛙状態になって、福井がダメになる。

■「したたかな福井人」を作ってもよい時代では

福井を勉強して、島根から新潟まで、江戸時代まではこちら側が表日本、関東が裏日本だった。松前藩から色々な物資を運んで、商いをしながら大阪まで運んだ北前船の繁栄や大陸文化の往来を考えると、福井は素晴らしかった。幕末に佐幕派が多かったため、明治維新で干された歴史があった。それもこれから地方圏時代になり変えていける。

「したたかな福井人」を作ってもよい時代ではないか。

